ふれあい曽山医院

2007年9月号（第50号）

発行人：曽山　信彦
兵庫県淡路市志筑1391−9
Tel：0799−62−5566
http://www.h6.dion.ne.jp/~soyama

今回の題字は、読者の方にお書きいただきました。

不整脈

心臓は死ぬまで休むことなく一分間に60～100回規則正しく拍動し全身に血液を送っています。この拍動が何らかの原因で遅くなったり、逆に早くなったり、またはリズムが乱れることを**不整脈**といいます。

そもそも心臓は四つの部屋（右心房・右心室・左心房・左心室）からなる筋肉でできており、自らのある部位で電気を発生し、自律神経の影響を受けながらその電気信号を心臓全体に伝えることで拍動しています。したがってこの電気信号がうまく伝わらなかったり、自律神経のバランスが崩れることで不整脈が起こるのです。不整脈は高齢になる程増加しますが、加齢によるものや自律神経の乱れ（過度の緊張やストレス、睡眠不足、飲酒や喫煙など）の場合はほとんどが心配のないタイプです。ただ生命に危険な不整脈の場合、突然心臓が止まったり、脳梗塞の原因になるタイプもありますので放置せず、早めに検査・治療していく必要があります。

【検査】

心臓から発せられる微弱な電流を体の表面でとらえ波形に描き出す「心電図」を行えば不整脈の他、心臓の病気を発見することもできます。

【高齢の方に多い種類】

1．頻脈性不整脈

①期外収縮：不整脈の大部分を占め、脈が跳ぶように感じられます。健康な人にもよくみられ回数が多く、連発しなければ心配いりません。

②心房細動：心房がけいれん状態になり約400～500回／分拍動しようとしますがそのほとんどは心室に伝わらないので、動悸を感じることがあっても生命の心配はほとんどありません。ただ心房の中で血液の流れが悪くなり血栓（血のかたまり）ができやすくなります。この血栓が血流に乗って脳の血管に届くと脳梗塞を起こすことになり、放置すると危険です。

③心室細動：心室がけいれんして収縮せず、心臓から血液が送られず突然死につながります。心臓に病気のある場合がほとんどですが、スポーツ中に突然倒れるのもこのタイプです。ただちに除細動しなければ予後は極めて悪くなります。

2．徐脈性不整脈

脈拍が少なくなり心臓から送り出される血液量が少なくなるため、各臓器に貧血症状（だるさや息切れ、めまい、失神など）がみられます。房室ブロックで電気信号が心房から心室にうまく伝わらない場合などに起こります。

【治療】

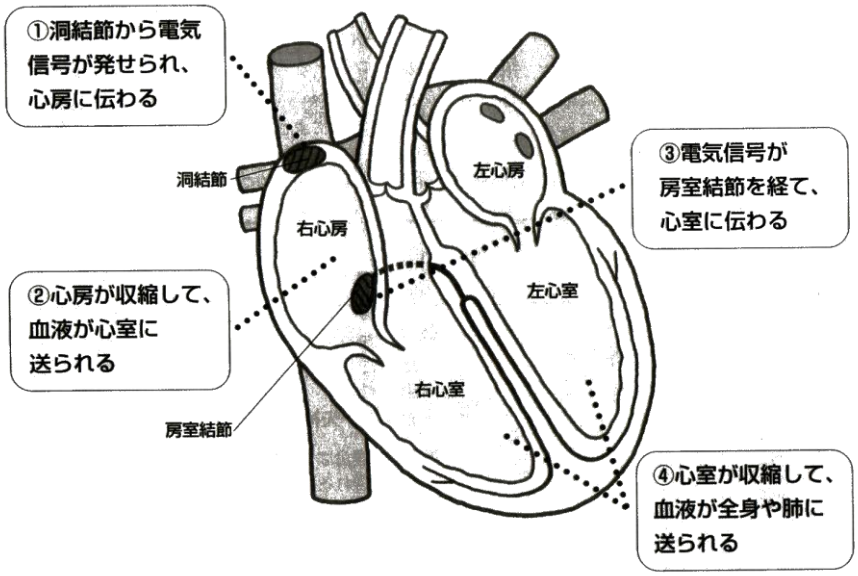
1．薬物療法：精神安定薬、抗不整脈薬、抗血栓薬が使われます。

2．手術療法：異常な電気信号の発生源を高周波電流で焼き切る治療です。

3．体内に機器を植込む治療：徐脈性不整脈に用いられる「ペースメーカー」心室細動に用いられる「植込み型除細動器」があります。

他にも不整脈の種類はたくさんあります。気になる方は一度御相談ください。

（看護師　岡崎　博子）

●心臓の仕組み

心臓の内部は4つの部屋に分かれており、①～④のような仕組みで収縮と拡張を繰り返して、全身や肺に血液を送り出している。